

あきく



ボランティアだより



No. 175

発行部数 1,500部

発行日 2012年5月

(編集・発行) 社会福祉法人広島市安芸区社会福祉協議会 ボランティアセンター
広島市安芸区船越南三丁目2-16 安芸区総合福祉センター3階
(TEL) 821-2503 (FAX) 821-2504
(Eメール) aki@shakyohiroshima-city.or.jp



安芸区ボランティア交流会

レクリエーションと茶話会

レクで、体も心も
リフレッシュしませんか？

<日時> 平成24年5月29日(火)
10:00~12:00(受付9:30~)

<会場> 安芸区総合福祉センター 3階大会議室

<内容> レクで楽しく遊ぶコツ!

講師:NPO法人

ひろしまレクリエーション協会

レクリエーションコーディネーター 山野 節子氏

茶話会 *小グループに分かれて、ケーキとお茶でお話しましょう!



<参加費> 無料

<持参物> 動きやすい服装、フェイスタオル、飲み物(水分補給)

<申込み> 各グループでとりまとめ、安芸区社会福祉協議会へTELまたはFAXで。
個人で参加の方は直接お申込みください。

*安芸区社会福祉協議会 安芸区ボランティアセンター

広島市安芸区船越南三丁目2-16

TEL/821-2501 FAX/821-2504

<締切り> 平成24年5月18日(金)

<主催> 安芸区ボランティアグループ連絡会
広島市安芸区社会福祉協議会





東北へボランティアに行ってきました

朗読ボランティアはるに所属の佐藤多喜子さんと息子の方俊さんが、福島県南相馬市仮設住宅での「土のお茶会サロン」ボランティアに参加された時の様子を手記にしてくださいました。

かぞえうた さあなにをかぞえよう
こえもないかなしみなら ひとつふたつ もうひとつと
わすれて またふりだしからはじめる きぼうのうた

東北の大震災を受けて Mr. Children が書いた歌です。東北からの帰りのバスで女の子に聞かせてあげた歌です。

僕が行った南相馬市は新聞やニュースで見聞きしたイメージとはずいぶん違って、ずいぶん田舎でした。その中に並んで立つ仮設住宅。僕たちはその中にある集会所でお茶会サロンを開きました。

1日目は本当にお好み焼きを焼くことで精いっぱいであり人々との交流ができませんでした。その中でも3人の仲のよい兄弟と少しお話をしました。「ユニホーム着とるけど野球好きなん?」「福島弁でよく使うことばは何?」たわいもない会話の中で末っ子5歳の男の子の誕生日の話になりました。「ハヤトの誕生日は東北大震災があった日なんだよ。」僕は現地の子どもから大震災という言葉が出てくるとは思わず、「へえ、そうなんじゃ。」返答に窮してしまいました。その日の反省会の時、一緒に来たメンバー達も話を聞いても答えることができず、くやしい思いをしたようです。

翌日は朝から実際に津波の被害にあった海岸沿いを視察。ぐにゃぐにゃに曲がったガードレール、ぼろぼろに崩れた家、かろうじて新しく建てられた電信柱。僕はその光景と原爆で廃墟になった広島のイメージを重ね合わせて見ていました。同時に大きく広がる水平線、何もさえないものがない広い海から押し寄せてくる大きな津波を想像しながら、僕は改めてというか初めて自然に対する畏怖の念、恐ろしさを実感していました。

その日のお茶会サロンはお好み焼きから離れて、こたつやテーブルについている人達の所に積極的に近づいて行きました。「おじさん」「おばさん」と呼ぶのも他人行儀な気がしたので、「お父さん」「お母さん」と声をかけながら。

一緒に来たメンバーは結構ヘビーな話をされていたようですが、僕は本当に他愛もない世間話。同じメンバーの女の子の勧めで、足湯をしているお父さんの肩をもみながら、高校時代ボクシング部だった話を聞いたり、お好み焼きを食べるおじさんの横で平将門の話を聞いたり。中には仮設住宅に結露が出て、大変だとおっしゃっている人もいました。だけど本当の胸の内はどうだったのか、笑顔の人達はたくさんおられました。ここまで来るのに多くの涙を流された方もいたでしょう。

本当の苦しさや悲しさは、ぼくなんか手の届かないところにあるのかもしれない……。

かぞえうた さあなにをかぞえよう
こえそなくらいみから ひとつふたつ もうひとつと
かぞえて あなたがさがしあてたのは きぼうのうた

最後に自治会会長の方が話した「続けて支援をしてほしい」という悲痛な声は、僕が今回聞いた誰の話よりも痛みと悲しみと苦悩を伴ったものでした。今後僕が東北のためにできることは何だろうと改めて考えても簡単に答えは出ません。とりあえず今は自分の生活を精いっぱい生きること、周りのみんなに何か伝わるものがあればと思います。

ひとつふたつ もうひとつとゆれてる
ともしびににた きえないきぼうのうた

遠い東北の地でどんなに小さくてもいいので、希望の明かりがとまり続けることを、広島から祈っていきたいと思います。



まさとし
佐藤 方俊

広島駅を定刻7分過ぎに出発!いざ東北へ、15時間の長旅、やっと到着。広島と寒さは変わらない。雪が所々に積み上げてある。お好み焼きの準備10人であつという間に、お好み焼き店が出来上がった。キャベツ、ネギを刻み、おたまでジューツと半分をプレートの上に、次々とお客が入り出し、間に合わないほどの人数50人は来られたらどうか?

美味しい、美味しいとあちこちで声が聞こえる。食べ終わった人から、手編みのマフラーを作り始め、子供らはカルタ取り、一番傑作だったのが、“やまんば”と自分で名づけた山野節子さんの余興とゲーム。全員で大笑い。4時半に解散。

夕食時の交流会「皆さんが来て下さるのは、本当に涙が出るほどうれしい。だけど私たちは今からもずっと生きていかなくてはならない。ただ、震災や津波の可哀そうな被害者としてではなく、普通の人として一人でもいい知り合いを作って長く手紙のやり取りでもしてほしい。」「彼らの心の友としてつきあって話を聞いてあげてほしい。」福島の人々は強いなあと思った。

2日目、違うサロンの場所で今日は誰かと話してみようと、お好み焼きは他の人にまかせて、手編みを

している4人のお母さん達、私よりは年上だろうと丁寧な話し言葉で話し出した。4人共、飛びついて下さった。いろんな話をしながらおっしゃった。「この仮設住宅には2度目よ、みんなが来てくれたのは。」まだまだ良い条件、悪い条件の差があるんだなあと思いつつ。「私が広島のカキを送るから、皆で集まってカキフライしながら楽しんで!テレビばかり見て、閉じこもらないで。」と早速住所を聞いて別れた。

ありがとう。福島。私も大事な大事な心を沢山もらいました。

佐藤 多喜子 2012. 2. 17

安芸区ボランティアグループ連絡会です!

安芸区ボランティアセンターに登録し、高齢者・障がい児者・児童などを対象に支援活動を行っている48のボランティアグループが、「安芸区ボランティアグループ連絡会」を結成し、グループ間の情報交換、交流会・研修会の企画開催、ボランティア活動の啓発等を通じて活動の発展向上を目指しています。

現在、概ね毎月1回各グループの代表者が集い、行事の企画や情報交換等を行っています。いろいろな活動をしているグループ同士が、グループの枠を越えてつながり合うことで、地域の中にネットワークを広げ、安芸区全体が温もりのある、安心して暮らせる街になると願って、いつも楽しく元気に活動をしています!

～安芸区ボランティアグループ連絡会～
平成24年度の役員が決まりました!

- 代表：西村千賀子さん(朗読グループはる・ひだまり&こすもす)
- 副代表：池田 成美さん(にこにこくらぶ)
- 加茂 壽美さん(ひまわり)
- 山根 加代子さん(イースト)
- 会計：西東 美苗さん(ドリーム)
- 書記：島田 兵二さん(あすなる)
- 会計監査：藤田 康子さん(話し相手ボランティアはな♡)

よろしく願います!



安芸区
ボランティア
グループの活動を
紹介します。

チェリッシュ

定例場所：安芸区総合福祉センター
定例会日時：毎週火曜日 10:00~12:00
活動内容：フルーツ演奏で訪問活動

平成24年3月16日（金）えんの会（65歳以上一人暮らし高齢者との交流会支援）の
カレーパーティーで、フルーツ演奏されました。

11:00~12:00 フルーツ演奏



童謡・卒業シーズンの曲・震災があったので、
元気が出る曲などを演奏
合間に自己紹介
肩叩きながらの歌
じゃんけんゲーム（相手に勝つ・負ける・あいこ）



12:00~13:00 カレーパーティー

カレー、ビール、日本酒、コーヒゼリー、サラダを
美味しくいただきました。

13:00~14:00 ビンゴゲーム

終了



◎ 参加者の皆さんは、知っている曲を口ずさみ、合間のゲームを楽しんでいました。

～安芸区社会福祉協議会～ 人事異動がありました



妙田 巧（退職） お世話になりました。

この度、定年退職しました。2年間という短い期間でありましたが、楽しく過ごさせていただきました。

安芸区は、大変環境が良いところであり、楽しい時間を過ごさせていただきました。特に、安芸区のボランティアグループで組織している、安芸区ボランティア連絡会は、他区には見られない多くのグループで組織されています。グループ全てを理解することなく、去ることになってしまい残念な気持ちであります。しかし、組織は力です。多彩な活動ができる団体であると思っておりましたが、ボランティア祭り等での発表やいろいろな飛躍の道の提案等が十分に出来なかったと反省をしております。

ボランティアの皆さん、よく聞かれることと思いますが、ボランティア活動は、他者を知り、社会を知り、自分を知ること。ボランティアの原点は、個人の自由意思にあります。こうしたことから、ボランティアは、人が求める活動であり、多くをもたらしてくれる活動と言えそうです。引き続き一緒に取り組んでいけたらと思っております。

今、安佐北区社会福祉協議会で総合相談員として勤務しておりますが、仕事内容の変化に戸惑いながらではありますが、皆さんと共に歩むつもりで頑張っておりますので、近くにお越しの際には、是非お立ち寄りください。

高橋 浩二（主任） よろしくお願ひします。

このたび、新しく安芸区社協にやって参りました高橋（たかはし）と申します。

安芸区社協の一員として、これから安芸区のことを深く知っていき、みなさんからも、気軽に声をかけていただける存在となれるよう頑張りますのでどうぞよろしくお願ひします。（＾＾）

引き続きよろしくお願ひします。

湯浅 正史(事務局長)、信井 祐子(主に地域)、影久 香(経理・指定管理)

杉原 奈央子(ボランティア・福祉教育・ガイヘル)、中野 牧子(総合相談員)

中本 登起枝(会館管理)、坂本 寿美代(ガイドヘルパー担当)、小田 京子(ボランティア担当)

・・・掲載記事についてのご意見・ご感想や、ボランティアに関するお問合せは・・・

安芸区ボランティアセンターへ TEL821-2503 FAX821-2504

